

る。しかし、大半の日本人は、この用語に違和感を持っている。なぜだろう。

ナショナリズムと英語(カタカナ)で表現するからややこしいのだ。そこで漢字の愛国心なら、わたしたちの、国を思う感情を十分に表現できるのか。必ずしもそうではあるまい。昨今のナショナリズム論において、香山リカさんが、ぶちナショナリズムと言いついて妙な表現をしたが、ナショナリズムを巡っては、これからも様々な言い回しが現れ、総論賛成、各論反対が続くだろう。という次第でもそもも言葉がしっくりこないの、ナショナリズム(愛国心)については、日本人は慢性胃炎に近い状態

で健康であるとは思えない。  
日本人が国を愛する(この表現が、またある恥ずかしさを含んでいるのだが)言葉を持ち得ていないがゆえに起こる混乱、あまいましさ。それが日本に晴々しく使えるナショナリズムを表す言葉を生み出し得ないのだと思う。

今の日本に広がりつつあるナショナルなものをめぐる感情は、英語で表現されるナショナリズムではなく、単なる懐古感情だろう。そこから古きを温ね新しきを生み出せる言葉を発見し、国民がてらいなく口に出すと思っている。他人と議論するためではなく、わがナショナリズムを探るためだ。

### インターの意味を考える

木村治美

(共立女子大学教授)

日本人が自尊心をとりもとしてくれてうれしい。ナショナリズムが気になるひとは、まずパスポートを国に返すことです。パスポートにこそ、国と個人の関係が凝縮されているのですから。しかし拉致被害者を四半世紀も放置したのは、国自体が国家意識をもっていなかった証左です。いま日本中に澎湃として起こるナショナリズムには、国にたいしてそういう問題意識もあるからです。

また、国際化が進むにつれて、国家意識が尖鋭になるのはEUをみればわかります。インターの意味を考えれば自明のことです。

サッカーワールドカップで日の丸が打ち振られるのを見るのは快いですが、さまざまな式場で、壇上に掲げられた日の丸に、登壇降壇の折に、敬意を表することを知らないナショナリストが多くて、困ったものだと思います。国旗は国家の象徴

出せる日を待つしかないと思う。

### ナショナリズムの快感

中嶋嶺雄

(国際社会学者)

日本国内に現在、ナショナリズムが広がっているとするれば、大変結構なことではないか。好むと好まざるとにかかわらず、世界的なグローバル化が進んでいるのであるから、無国籍で蒸留水のような国民心理であっては、日本人のアイデンティティが定まらず、日本という国家が昇華してしまいうからである。

このような評価をすると、不健康なナショナリズムだという見方があるとすれば、そのような見解こそアナクロニズムである。ナショナリズムは愛国心と同様に感情的価値を伴う厄介な概念ではあるが、亡き清水幾太郎氏が早くも一九五〇年に名著『愛国心』(岩波新書)で指摘していたように、個人の自覚と民主主義を欠いている場合には、困った存在になるのである。たしかC・ヘイズは「郷土愛」をナショナリズムの母斑だと言っていたが、今日の日本のナショナリズムはそのような爽快感を伴う国民心理だといえよう。それは、個人主義であるという世界の常識を知らないで、その壇上でナショナリズムを語るのはいかかなものでしょうか。

### 友好という虚構

高山正之

(帝京大学教授)

隣の家があつて初めて我が家がある。我が国という意識もよその国があつて初めて成立する。韓国がいちいち日本を引き合いに出してしか自国を語れないわけがそこにある。

よその国は自国を映すいわば鏡だ。日本は戦前、それをじかに見る事ができた。それも敗戦時、軍民あわせて六百万もの引揚者がいたことが示すように多くの国民がその機会をもち、世界と我が国を認識した。

しかし戦後は違った。よその国は中国もロシアもすべて善い国で、日本は友好だけを語らねばならなかった。この嘘を強いたのが新聞と外交官だった。平和を希求する諸国民という虚構の鏡が半世紀も居座った。

その意味でW杯や拉致問題は日本人がじかによその国を見るまれな機会だった。そ

も民主主義も欠落している中国や北朝鮮あるいはイラクなどの独裁国家が唱える愛国主義とは、根本的に異なっている。

### 甦る佐藤栄作の言

岩見隆夫

(政治ジャーナリスト)

私を含めて、戦後半世紀あまり太平楽な時を過ごしてしまったものだ、という苦い悔恨がある。いつのまにか利己的で無国籍的な民族になり果てていた。それはワールドカップとか拉致とか、一時の外からの刺激でどうにかなることではなく、すぐれて内なるものに違いない。

ナショナリズムに「気になる」とか「不健康な」と形容詞をつけるのに私は反対だ。論争のテーマではなく、みんながそれぞれに沈潜し、考えを深めるときではないか。

契けだし政治記者のころ、佐藤栄作首相がしきりに「国を守る気概」と言うのが耳ざわりに聞こえた記憶がある。当時の私には、ナショナルな心情が極めて希薄だった。人生残り少なくなつて、がく然としている。「愛国心」とか「徴兵制」を一人の日本人として、熱心に考えなければならぬして新聞と外務省抜きで韓国、北朝鮮の正体を見てだれもが素直に嫌悪した。我が国をちよっぴりだけれど認識した正直な反応だろう。

いま不健康な虚像がやつと崩れ始めた。

### 金融のナショナリズム

藤原作弥

(日本銀行副総裁)

米国には、ノーベル賞経済学者フリードマンのマネタリズムの命題「インフレは貨幣的現象」を信奉する学者、政府高官、エコノミストが多い。彼らは同命題の「+と-」の絶対値を変え「デフレも貨幣的現象」と主張し、日本に対し「インフレ目標」導入の危険な実験を呼び掛けている。余計なお世話、迷惑な話だ。

一方、日本にも米国に呼応して「ヘリコプターからカネをばら撒け」式の「インフレ目標」を提唱する経済学者がいる。そのほとんどが「貨幣現象論」の洗礼を受けた米国帰り。それに一部の政治家や官僚も賛同して「インフレ目標」の大合唱だ。

しかし、一九九五年以降、日本では、マネーがいくら増加しても名目成長率が伸びないことは統計数字が立証済みである。

# 諸君!

2003 **3**  
MARCH  
文藝春秋

拉致家族を「障害」とはナンダ!!

## 『朝日』だけは許せない! 蓮池 透 西岡 力

スポーツマインド 司令塔の条件 三原 脩・野村克也… 早坂茂三/二宮清純  
で見る小泉政治 田中角栄・竹下 登…

金正日とフセイン ならず者二人組に二挺拳銃か

## 戦機熟す秋 中西輝政 西尾幹二

危険なゲームを読む 一にイラク、二に北朝鮮とは限らない 田中明彦/山内昌之

小泉よ、自殺者3万人! 恥かしくないか!

デフレの冬はオロオロ歩けというのか 亀井静香 (聞き手) 澁川栄太

総特集  
今ナショナリズムは

朝日元旦社説「千と千尋」の精神で」を読む

## 空なるトランプの城 古森義久

こっちは 何故問わない!? ナショナリズムの狂奔 中国 金美齢/高木桂蔵  
韓国 黒田勝弘

国家(民)主義から愛国主義へ 渡部昇一

nationalism

patriotism

46人に聞く— 「日本ナショナリズム」の血圧を測る

また安全か、もう危険か 桶谷秀昭 鈴木孝夫 高樹のぶ子 小堀桂一郎 長尾龍一 佐伯啓思 吉田直哉 石川 好 中嶋嶺雄 岩見隆夫  
木村治美 高山正之 藤原作弥 入江隆則 坂野潤治 呉 善花 加地伸行 田原裕一郎 鄭大均 榎 孝太郎 ほか

思い、邪なる報道姿勢に警告!!

TBS

筑紫哲也氏

## 「ハタカの慰安婦報道」疑惑の十三分 秦 郁彦

どうもサンゴの肥立ち、がお悪いようで……

ここでやめときゃ「地村事件」はなかったのに

朝日

『週刊朝日』いまだ悔いざる「前非」 青沼陽一郎

「海自」が激怒した編集委員の「捏造」 長谷川 学